



〈雜録〉濠洲二於ケル最低賃金 : The American Economic Review. Vol. ?, No. 2. 所載 M. B. Hammond : Judicial Interpretation of the Minimum Wage in Australia. 抄譯(3)

板垣, 茂末

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 15(6):995*-1006

(Issue Date)

1913-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052139>



況ヲ詳ニセズ。曩キニ米田氏ノソムロ紹介文ヲ見テ竊カニ會心ヲ感ジツ、アリシノミ。若シ予ガ此一文河上教授ヨリノ報導ヲ早ク誘出シ得ルノ機會ヲ作ルコトアランカ予ガ幸ヤ大ナリト云フ可シ。
(大正二年十月十日記ス)

濠洲ニ於ケル最低賃銀(其三)

[The American Economic Review, Vol. III, No. 3 所載
M. B. Hammond: Judicial Interpretation of the Minimum
Wage in Australia. 抄譯]

板垣茂末

四

以上述べ來ツタ所ハ專ラ不熟練労働者ニ關スルモノデアツタ。而シテ最低賃銀ヲ以テ、「文明國ニ生存スル一箇ノ人間タル通常ノ労働者ノ一般ノ必要」ヲ滿タスニ足ルモノデナケレバナラヌトノヒツギンズ氏ノ主義ハ不熟練労働者ノ賃銀ヲ定ムルニ當ツテ適用セラレタモノデア

ル。サレバ熟練労働者ニ就テハ此基本ノ率ニ、尙ホ其熟練ニ對スル報償、竝ニ職業習得ノタメニ拂ヒタル犠牲ニ對スル報酬トシテ多少ノ増額ヲナサナケレバナラヌ、新西蘭及ビ濠大陸ノ産業狀態ヲ觀察スル亞米利加人ノ眼ニ奇異ニ感ゼラル、コトハ、濠洲諸都市(八時間労働ガ最モ廣ク行ハレ居ル)ヲ通ジテ、不熟練労働者ノ賃銀ガ亞米利加ノ同様ノ都市ニ行ハレルモノヨリモ高キニ拘ラズ、各種ノ熟練労働者モ賃銀ガ亞米利加ニ於ケルヨリモ却ツテ低キコト是レデア。余ハ此事實ノ由來スル所ヲ充分ナル自信ヲ以テ明カニシ得ル者デハナイガ、余自身ノ觀察竝ニ公ノ報告書ニ基イテ大體次ノ如キ事情ガ存スルト考ヘル。而シテ此見解ハ曾テ合衆國若シクハ加奈太ニ於テ労働シタルコトノアル濠洲ノ熟練労働者ガ余ニ與ヘタル證明ト一致スル。即チ、濠洲ノ不熟練労働者ノ賃銀ガ亞米利加ノソレヨリモ高イノハ、主トシテ亞米利加ガ外國移

民ニヨツテ絶ヘズ不熟練労働者ノ過大ナル供給ヲ受ケ居ル爲メデアル、尙ホ濠洲ノ不熟練労働者ノ間ニ組合ノ組織ノ發達セルコトモ多少其理由ト認メテバナラヌ。而シテ亞米利加ノ工場ニ於テ機械ノ應用ガ發達シ居ルコト及ビ箇數拂賃銀ノ制度ノ普及セルコトハ亞米利加ノ熟練労働者ノ受クル賃銀ヲ濠洲ノソレヨリモ遙カニ大ナラシメテ居ル所以デアル、ト。

太洋洲ニ於ケル熟練労働者ニ對シテ各州ノ仲裁裁判所ガ最低賃銀ヲ決定スル方法ニハ、不熟練労働者ノ場合ニ於ケル程ノ統一ガナイ。中ニ就キ稍定マツタ型ヲナシテ居ルノハ新西蘭ノ判例デアル。即チ同州ニ於テハ最近ニ至ルマデ、不熟練労働者ノ賃銀一日八志ニ對シテ熟練労働者ノ最低賃銀一日十志ト定メラレタ。而シテ其仕事ニ特別ノ熟練ヲ要スル場合ヤ、其職業ガ季節的ノモノデアル場合等ニハ最低率ハ一般ニ一日十一志ト定メラレタ。濠洲ニ於ケル熟練労働

者ト不熟練労働者トノ賃銀ノ差額ガ、兩親ヲ誘ツテ其子供ニ職業ヲ習得セシメルニ充分デアルカ否カトイフコトハ屢疑問トセラル、所デアル。年期奉公制度ノ問題ハ今日濠洲ニ於テハ朝野ノ有力者ノ間ニ重大ナル問題トナツテ居ル。

ヒツギンス氏ハ最下級ノ労働者ニ對スル生活賃銀ヲ以テ最低賃銀ノ基本タラシムベシトノ説ヲ他ノ判事ヨリモ遙カニ完全ニ又遙カニ明瞭ニ説明シタノデアルガ、熟練労働者ニ對スル最低賃銀ノ決定ニ就イテモ氏ハ正シキ原則ニ思ヒ當ツタモノ、如クデアル。而シテ氏ハ此原則ヲ屢説明シテ居ルノデアルカラ、以下氏自ラノ言ニヨツテ之ヲ明カニシヤウ。此原則ハ生活賃銀ノ説ト同ジクハーベスター事件ニ於テ初メテ述べラレタ所デアル。即チ其事件ニ於テ氏ハ次ノ如ク言ツタ。

「余ハ多クノ場合ニ於ケル經驗アル雇主ノ實行セル所ヲ標準トシ、又時トシテハ仲裁裁判所ノ判例ヤ、賃銀會

議ノ決定ヲ標準トスル。而シテ此ノ如キ標準ノ求メテ得ラレナイ場合ニ、自己ノ支拂ヘル賃銀ニ對シ公平且ツ合理ナリトノ判定ヲ出願シテ居ル雇主ガ、其不熟練労働者ニ對スル賃銀ト各種ノ熟練労働者ニ對スル賃銀トノ間ニ定メ居ル比例ヲ參酌スル。余ハ又雇主ノ實行セル所ナバ、余ガ他ノ標準ニヨツテ下シタル結論ニモ對校スル。例ヘバ、此場合ニ出願者ガ不熟練労働者ニ支拂ヘル賃銀ハ六志デアツテ、其板鐵工ニ支拂ヘル賃銀ハ八志デアアル。然ルニ余ハ新西蘭ノ判例及ビ其他ノ材料ヲ基礎トシテ不熟練労働者ノ賃銀ヲ七志ト定メ板鐵工ノ賃銀ヲ九志ト定メタノデアアルガ、此比例ハ適マ出願者ガ兩者ノ間ニ定メ居ルモノト殆ンド一致スルノデアアルカラ、余ハ余ノ決定ニ對シテ更ニ確信ヲ加ヘルノデアアル。雇主ノ支拂ツテ居ル賃銀ハ其絕對ノ額ノ低イ場合ニ於テモ、兩種ノ賃銀ノ相對的割合ヲ定ムル標準トシテハ多少信頼シ得ベキモノデアアル。余ノ決定ノ不當ナラザルコトハ、之ニヨツテ明カデアアル。余ハ決シテ高イ賃銀ヲ定ムルヲ余ノ義務デアルトハ考ヘテ居ナイ。余ハ單ニ公平且ツ合理ナル賃銀即チ高キ賃銀デモナクレバ、又僅カニ糊口ヲ支フルニ足ルヤウナ低イ賃銀デモナイ、云ハバ其中間ニ位スル賃銀ヲ定ムベキ義務ヲ負フテ居ルノデアアル。表ノ中ニ記サレ居ル各種ノ労働者ニ對シテ、余ハ余ノ公平且ツ

合理ナリト信ズル最低賃銀ヲ定メタ。而シテ特別ノ熟練若シクハ特別ノ資格ヲ有スル労働者ニ對シテ特ニ加添スベキ報酬ハ、彼等ト雇主トノ直接ノ契約ニ放任シテ置ク。余ハ如何ナル仕事ニモ經驗ヲ有シテ居ラヌ者デアアルカラ、上級ノ労働者ノ間ニ精密ナル差別ヲナスコトハ出來ナイ。余ハタゞ通常ノ熟練ヲ有スル労働者ノミヲ取扱ツタノデアアル。併シナガラ、ヒツギンス氏ガ賃銀ニ差等ヲ設クル理由トシテ認メタノハ當ニ熟練ノ相違ノミデハナイ。氏ハ賃銀ニ關スル商業上竝ニ社會上ノ慣習ヲ認ムルモ、賃銀ガ生活賃銀ノ限度以下ニ下ラナイ場合ニハ、此慣習ヲモ重要視シタノデアアル。千九百十年ノ高級船員ノ事件ニ於テ次ノ如ク言フテ居ル。

「余ハ自分が今取扱ツテ居ルノハ高級船員ノ事件デアツテ一般労働者ノ事件デナイ事ヲ特ニ注意シタイ。而シテ裁判所ノ理想トスル所ハ産業上ノ平和デアツテ、階級間ノ關係ヲ理論的ニ正當ナラシメントスルノデナイカラ、余ハ殆ンド自然法ノ如キ力ヲ有スル慣習ニ對シテ價值ヲ認メザルヲ得ナイ。船長及ビ高等海員ハ會社ノ規定スル立派ナル服裝ヲ着シナクレバナラヌ。而シテ其費用ハ可ナリ多額デア

ルガ、之ハ船員ノ負擔スル所デアル。サレバ船員ニ對スル最低賃銀ヲ定ムルニ當ツテハ此事ヲモ考量シナケレバナラヌ。

次ニ箇數拂賃銀——聯邦仲裁裁判所ニ於テハ餘リ問題トナラナカツタ——ヲ定ムルニ當ツテハ、ヒツギンス氏ハ太洋洲ニ於ケル實際ノ慣習ニ從ツテ之ヲ時間拂賃銀ニ換算シタ。即チ羊毛剪截工ノ事件ニ於テハ氏ハ「此制度ヲ箇數拂賃銀ニ適用センガ爲メニハ、羊毛剪截工ガ時間給デアル場合ニ受クベキ最低限度ノ賃銀ヲ箇數拂ニ換算スルヨリ外ニ方法ノ無キコトニ就テハ、雇主側モ勞働者側モ共ニ余ト其見解ヲ一ニシテ居ル」ト云ツタ。

ヒツギンス氏ハ此事件ニ於テモ、他ノ場合ト同様ニ先ヅ不熟練職工——脱毛夫 (shed hands)——ニ對スル最低賃銀ヲ一般ノ一日七志ノ率ノ外ニ旅費トシテ一週六志支給スルコト、定メ、次デ剪截工ニ對シテハ之ヨリモ一週ニツキ十二志ダ

ケ高ク、即チ一週六十志ヲ以テ其最低賃銀ト定メタ。之ハ箇數拂ニ換算シテ羊百頭ニツキ二十四志ノ割合トナル。此率ハ三年前ニオツコンナー氏ガ全ク別ノ標準ニヨツテ決定シタルモノト全然一致スル。

更ニ最近ニ於テヒツギンス氏ハ其最低賃銀ノ原則ヲ婦人勞働者ノ賃銀決定ニ適用シタ。「マレ一河」沿岸ノミルヂユラ(南濠州)及ビレン(南濠州)ノ兩灌漑殖民地ニ於テ、最近十年間ニ果樹栽培業ガ大ニ興ツタ。果實採收ノ季節ニハ多數ノ男女及ビ少年ガ此地ニ集ツテ葡萄ヤ杏ノ採收ニ従事スル。而シテ其他ノ期間ニハ主トシテ婦人及ビ少年ノ勞働者ガ果實ヲ市場ニ運ビ出ス準備ノ爲メニ雇ハレル。千九百十二年勞働者組合ハ聯邦仲裁裁判所ニ此地ノ婦人勞働者ノ賃銀ヲ男子ノ賃銀ト同一トナスベシ、即チ「同一ノ仕事ニ對シテ同一ノ報酬」ヲ與フベシトノ要求ヲ訴ヘ出デタ。所長ハ先ヅ「同一ノ仕事

ニ對シテ同一ノ報酬」トイフ言葉ニハ「異ナツタル仕事ニ對シテハ異ナツタル報酬」ヲ認ムル意ガ含マレテ居ルト云ヒ、次デ主トシテ男子ノ從事スル仕事ニ於テ、女子ガソレト同一ノ勞働ニ服スル場合ニハ、女子モ男子ノ受クル一家ヲ支フルニ足ルダケノ賃銀ヲ受クベキ筈デアルトシテ次ノ如ク云ツタ。

「最低限度ハ例外ノ場合ヲ基礎トシテ定ムルヲ得ナイ。果實採收ニ從事スル勞働者ノ大多數ヲ占ムル者ハ、少ナクトモ今日ニ於テハ男子デアアル。而シテ女子ノ之ニ從事スル者ハ男子ト相拮抗シテ居ルノデアアルカラ、此場合ノ最低賃銀ハ男子ノ必要ヲ基礎トシテ定メラレナケレバナラヌ。反之、女小間物屋ノ如キ之ニ從事スル者ノ殆ンドスベテガ、婦人勞働者ナル場合ハ婦人ノ必要ヲ基礎トシテ其最低賃銀ヲ定ムベキデアアル。」

カクテ氏ハ果實採收ニ從事スル婦人ニ對シ男子ト同様一時間一志ノ支拂ヲ受クル權利ヲ認メ且ツ之ニ附言シテ「此仕事ニ對シ男女ノ孰レヲ選ブカ、又何人ヲ選ブカハ全ク雇主ノ自由デア

ルト言ツタ。

併シナガラ、荷造ニ從事スル勞働者ノ賃銀ハ右ト異ナツテ其仕事ガ本來婦人ノ仕事ト看做サレ居ルモノデアアルカラ、一時間九片ヲ以テ最低限度ト定メラレタ。此最低賃銀モ男子ニ對スル最低賃銀ト同一ノ原則、即チ彼等ハ自ラ己ノ生活ヲ維持シナケレバナラヌモノト推定シテ其衣食住ノ必要費ヲ基礎トシテ定メラレタノデアアル、而シテ兩者ノ率ニ差異ノ存スルハ、多數ノ婦人ハ男子ノ如ク一家族ノ生活ヲ支フベキ義務ヲ負ツテ居ルモノデナイト推定サレタカラデアアル。

五

以上大略述べタル所ハ、太平洋洲ノ裁判所、殊ニヒツギンス氏ヲ所長ニ戴ク聯邦仲裁裁判所ガ賃銀ヲ決定スルニ當ツテ採用シタル原則デアアル聯邦仲裁裁判所ノ所長ハ濠洲高等法院ノ判官ノ間カラ選出セラレ居ルガ爲メニ、其判決ハ各州裁判所ノ判事ノ上ニ大ナル勢力ヲ有スル——勿論

彼等ハソレニ倣フベキ義務ヲ有シテ居ルノデハナイガ。新西蘭仲裁裁判所判事シム氏及ビニュー、サウス、ウエールズ裁判所判事スコールス氏ハ共ニ其判決ヲ下スニ當リ最低賃銀ノ基礎ニ關スルヒツギンス氏ノ見解ヲ多少參酌シタル旨ヲ余ニ告ゲタ。加之、余ハ屢賃銀會議ニ於テ雇主ガ、一日七志トイフ標準ガ氏ニヨツテ定メラレタコトヲ理由トシテ、其會議ニ於テモ普通ノ勞働者ニ對シテ、此標準ヲ採用スベシト主張スルノヲ聞イタ。

最低賃銀ヲ定ムルニ當リ、聯邦仲裁裁判所ガ常ニ勞働者ノ必要ヲ重要視スルコトノ爲メニ、雇主ノ利益竝ニ其事業ガ賃銀ノ昂騰ニ堪ヘ得ルヤ否ヤノ問題ガ看過セラレ居ルニ非ズヤトノ疑ヲ生ズルカモ知レヌ。ヒツギンス氏ノ下シタ判決ノ記錄中ニモ其ノ一部分ヲ拔出シテ見ル時ハ雇主ノ利益ガ全ク看過セラレ居ルト感ゼシメルモノ、アルコトハ認メナケレバナラヌ。例ヘバ

ハーベスター事件ニ際シ氏ハ次ノ言ヲナシテ居ル。曰ク「公平且ツ合理ナル報酬ハ利潤ノ皆無ナル場合ニ於テモ、十割ノ利潤ノ存スル場合ニ於テモ共ニ支拂ハレナケレバナラヌ」ト。併シ、此判決ハ内國消費稅法ニ關スルモノデアツテ、仲裁法ニ關スルモノデナイコトヲ記憶シナケレバナラヌ。立法者ハ同法ニヨツテ製造業ニ一ノ交換條件ヲ提供シタニ過ギナイ。即チ同法ニ曰ク「若シモ製造業者ガ其勞働者ニ對シ公平且ツ合理ナル賃銀ヲ支拂フナラバ、彼等ハ高キ保護關稅ノ利益ヲ與ヘラレルデアラウ。而シテ製造業者ノ支拂ヘル賃銀ガ公平且ツ合理ナリヤ否ヤノ判定ハ一ニ之ヲ仲裁裁判所ニ委テラル」ト。

余ノ考フル所ニヨレバヒツギンス氏ガ雇主ノ立場ヲ考量シナカツタノト斷ズルノハ正當デハナイ。カク斷言スル者ハ多ク其判決錄ノ全文ヲ熟讀セズシテ、新聞紙上ニ於ケル其拔萃若シクハ反對派ノ機關新聞ノ論說ヲ讀ンデ輕々シク結

論スルノデアル。氏ハ常ニ通常ノ勞働者ノ生活賃銀ヲ以テ何物ヨリモ最モ重ンズベキモノナリトノ見解ヲ固守スルト共ニ、之ニ次デ重ンズベキハ產業ガ賃銀ノ増加ニ堪ヘ得ベキコト是レデアルトシテ居ル。之ヲ可能ナラシメンガ爲メニ雇主ニ對シテ、定メラレタル賃銀ヲ受クル資格アル勞働者ヲ選擇スル完全ナル自由ヲ與ヘナケレバナラスト主張シタ。氏ハ曰ク「雇主ノ立場ヨリシテ最低賃銀公定ノ有利ナル理由ノ一ハ、雇主ハ一定率ノ賃銀ヲ支拂ハチバナラヌ義務ヲ負フト同時ニ、最モ有爲ナル勞働者ヲ選擇スル自由ヲ得ルトイフコト是レデアル」ト。

和解仲裁法ハ必要ト認ムル場合ニハ、雇主ノ帳簿其他ノ書類ヲ檢閲シ得ル權利ヲ仲裁裁判所長コ與ヘテ居ル。而シテ此權利ハ雇主ガ、裁判所ノ定メントスル賃銀ヲ支拂フコトハ其事業ノ堪ヘル所デナイト主張スル場合ニ何時デモ實行セラレル。併シナガラ、雇主ガ此ノ如キ主張ヲ

ナシタコトハ頗ル稀レデアル。即チ、多クノ場合雇主ハ其事業ガ賃銀ノ引上ゲニ堪ヘ得ルコトヲ認メタノデアル。製靴業ノ事件ニ於テ二三ノ製造業者ハ職工ノ要求スル賃銀増額ハ彼等ノ堪フル所デナイト主張シタ。而シテ判事ハ、提供セラレタル證據書類ノ調査ヲナシタル後次ノ如ク云ツタ。曰ク「余ハ二三ノ製造業者ガ私カニ洩シタル事實ヲ不問ニ附スルコトハ出來ヌ。：州ノ内外ニ於ケル競争ノ頗ル激烈ナルコト、竝ニ賃銀ノ多額ノ引上ゲガ保護關稅ノ存スルニモ拘ラズ輸入増加ヲ招致スベキコトヲ認ムベキ證據ガアル」ト。

併シナガラ、或種ノ產業ガ押並ベテ賃銀ノ引上ゲニ堪ヘナイトイフコト、或一ツノ企業ガ之ニ堪ヘナイトイフコト、ハ全ク別問題デアル是ニ於テカ、所長ハ云ツタ「一ノ產業ガ生ジ得ベキ利潤ト箇々ノ雇主ガ收得スル利潤トノ間ニハ明カナル區別ガアル。無能ニシテ濫費ヲコト

トスル雇主ニ對シテ、老練、敢爲且ツ新工夫ヲ怠ラザル雇主ニ對スルヨリモ低キ賃銀ヲ定ムルガ如キハ全ク不合理ナコトデアル」ト。

或ハ次ノ如キ問ヲ發スルモノガアラウ。經營上何等ノ失策ナキニモ拘ラズ、少シノ利潤ヲモ生ジナイ事業ノ勞働者ガ生活賃銀ノ要求ヲナシタル場合ニハ、裁判所ハ如何ナル態度ヲトルベキデアルカト。

此間コン正シク聯邦仲裁裁判所ニ於ケル最も有名ナル事件ニ於テ發セラレタルモノデアル。

ブローケン、ヒル及ビボート、ビリーニ於テ採鑛竝ニ精煉ノ業ヲ營ミ、四千人以上ノ雇人ヲ使役スル一大會社ガ、賃銀ノ減額ヲ宣言シタルニ對シテ、勞働者側カラ訴訟ガ提起セラレタ。之ニ對シテ會社ハ若シモ在來ノ賃銀ヲ維持セントスレバ事業ヲ有利ニ繼續スルコト不可能デアルト辯明シタ。即チ、現在ノ採鑛ノ率ト低廉ナル金屬價格ヲ以テシテハ、二箇年半以上同一鑛山

ノ採掘ヲ續ケテハ引合ハナイ。會社ハ精鑛一噸ニツキ約八志、粗鑛一噸ニツキ約一志四片宛ノ損失ヲ蒙ツテ居ル。今若シ會社ガ其支拂フベキ賃銀ノ年額ヲ六萬磅乃至七萬磅ダケ減ズルコトガ出來レバ——即チ精鑛一噸ノ原價ヲ十志九片ダケ減スルコトガ出來レバ——一噸ニツキ八志宛ノ損失ヲ轉ジテ一噸ニツキ二志九片ノ利益トナスコトガ出來ヤウトイフノデアル。

此辯解ニ對スル裁判所側ノ答ハ、今日大多數ノ太平洋洲人ガ勞働ト資本トノ正當ナル關係ニツイテ懷抱スル見解ヲ明カニ代表シ居ルモノデアル。即チ前ニ述ベシ如ク、ヒツギンス氏ハ現在ノ賃銀ヲ以テブローケン、ヒルノ如キ地ニ生活スル「一般ノ勞働者ノ日常ノ必要費」ヲ充タシテ餘リアルモノデナイト判定シテ次ノ如ク宣言シタ。

「若シモ雇主ガ其勞働者ニ當然支拂フベキ賃銀——彼等ノ生活ヲ支ヘル爲メニ缺クベカラザル賃銀——ヲ減額シナケレバ

事業ノ繼續ガ困難ナル場合ニハ、寧ロ其事業ヲ抛棄スベキデアル。カ、ル見解ハステニアデレドノ判事ゴールドン氏及ビ西澤洲ノ判事バノンサイド氏ガ各全ク獨立ニ採用シタ所デアル。ゴールドン氏ハ刷毛製造業者ノ事件ニ於テ「或ル産業ニシテ若シ其労働者ノ一日八時間ノ労働ニ對シテ七志トイフ賃銀ヲ支拂ツテハ、其維持困難ナリセバ、其産業ハ全然閉鎖シナケレバナラヌ」ト云ツタ。又バノンサイド氏ハ炭坑夫ノ事件ニ於テ、雇主側ノ最低限度引下ゲノ要求ヲ拒絕シテ次ノ如ク云ツタ、曰ク「若シソレダケノ賃銀ガ支拂ヘナイナラバ、其業ヲ中止シテ労働者ヲシテ他ニ轉業セシメタガヨイ」ト。而シテ右何レノ場合ニ於テモ他ノ裁判官ハ皆之ニ同意ヲ表シタノデアル。

所長ハ會社ガ其鑛山ヲ閉鎖シナケレバナラヌ破目ニ陥ルカモ知レナイトイフコトヲ否定シヤウトハセズ、却ツテ其ノ如キ結果ニ對シテ仲裁裁判所ガ負フベキモノデアルト考フルガ如キハ全ク理由ノ無イコトデアルト云ツタ。又氏ハ雇主ノ利益ノ爲メニ賃銀ヲ引下ゲテモ尙ホ探掘ヲ續ケナケレバナラヌトノ議論ヲ認メナイデ、生

活賃銀ノ要求ヲ讓歩スルノハ組合主義ノ生命ヲ失ハシムル所以デアリ、又和解仲裁法ノ「主ナル目的」ノ一ハ「雇主側並ニ労働者側ノ代表的團體ノ組織ヲ助成スル」ニアルトイフコトヲ、労働者組合ノ領袖ト共ニ認メタノデアル。サレバ氏ハ曰ク「余ハ鑛山ノ閉鎖ガ重大ナル結果ヲ生ズベキコトヲ知ツテ居ルガ、濠洲ノ運命ハ一鑛山若シクハ一會社ノ興亡ニ繫ルモノデハナイ歴史アル鑛山ノ閉鎖サル、ノハ一ノ災害デアル併シ、人民ガ衣食ニ窮スルハ更ニ大ナル災害デアル」ト。

ヒツギンス氏ハ、一度ビ生活賃銀ヲ以テ嚴格ナル最低限度―氏ノ言葉ヲ以テスレバ「契約ヲ以テ左右スルヲ得ナイ、神聖ニシテ犯スベカラザルモノ」―ト定ムルヤ、如何ナル場合ニ於テモ通常労働者ノ賃銀ヲ之ヨリ以下ニ引下ゲルコトヲ許サナイ。併シ、上級ノ労働者ノ賃銀ヲ定ムルニ當ツテハ、氏ハ其ノ事業ノ繁榮ニ及ボス

影響如何ヲ度外視シナカツタノデアル。

製靴業ノ事件ニ於テハ、州際的竝ニ國際的ノ激烈ナル競争ノアツタ爲メニ、所長ハ熟練職工及ビ未熟練職工ノ賃銀ヲ望ム所ヨリモ稍低ク定メザルヲ得ナカツタ。而シテ製靴業ニ就テハ他ノ仲裁裁判所ノ判事ヤ、賃銀會議ノ議長等モ、氏ト同様ノ困難ニ遭遇シタノデアル。更ニヒッキンズ氏ハ次ノ如キコトヲモ云ツテ居ル。「熟練労働者ニシテ一度ビ生活賃銀ヲ確保センカ、彼等ハ最早ヤ賃銀締結ニ就テホヽ雇主ト同等ノ地位ニ立ツテ居ルモノト看做サルベキデアル。サレバ或程度迄ハ兩者ノ關係ヲ自由契約ニ放任シテヨイ」ト。又氏ハ吾々ガ今茲ニ問題トシテ居ルブローケン、ヒル事件ニ於テモ、事業ノ創成時代ニ當ツテハ熟練ナル労働者が將來ノ利益ヲ豫想シテ、一時、事業ノ發達ヲ助クルタメニ當然得ベキ率ヨリモ稍低キ賃銀ヲ以テ満足スルコトアルデアラウト云ツテ居ル。此理由ニヨリ氏ハ

「賃銀ヲ單純ニ糊口ノ爲メニ必要ナル部分ト、熟練、獨占等ニ基イテ生ズル部分トノ二ツニ截然區分スルコトガ望マシイ」ト考ヘタ。

賃銀率ノ設定ヲ除イテハ、ヒッキンズ氏ハ事業ノ經營ニ關スル雇主ノ自由行動ヲナルベク束縛シナイヤウニ努メ居ルヤウデアル。労働者側ノ利益ノ爲メニ、雇主ヲシテ一定ノ規則ヲ遵守セシムベキコトヲ組合ガ要求シタル際ノ如キ、氏ハ之ヲ以テ雇主ノ營業ノ自由ヲ阻礙スルモノトシテ斥ケタノデアル。聯邦和解仲裁法ガ明文ヲ以テ裁判所ハ組合労働者ニ對シテ特典ヲ與ヘ得ル旨ヲ規定シ、又實際新西蘭竝ニ濠大陸諸州ノ裁判所ガ屢彼等ニ特典ヲ與ヘタルニモ拘ラズ氏ハ之ヲ以テ雇主ノ有スル労働者選擇ノ自由ヲ束縛スルモノトシテ、余ノトラザル所デアルト確言シタ、タバーノ事件―其記錄ハ余ノ手許ニ最近ニ到達シタ―ニ於テ、氏ハ組合員ノ就職ニ對シテ特典ヲ與フベシトノ組合ノ要求ヲ承認シ

テ居ル。此要求ガ容レラレタノハ、一ニプリス
ベン市街鐵道ノ支配人ガ組合員ニトツテ不利ナ
ル差別的待遇ヲ中止スルコトヲ諾シナカツタノ
ニ基ク。所長ハ次ノ如ク云ツタ。曰ク「余ハ支
配人ガ其事業ニ優良ナル労働者ヲ集メントスル
努力ヲナルベク阻碍シナイ方法ニ於テ、組合員
ニ特典ヲ與フベシト命ズベク餘儀ナクサレテ居
ルト。

所長ハ仲裁裁判所ニ訟訴關係者トシテ出デタ
ル多數ノ(スベテハナイガ)雇主ノ間ニ不人望
デアルコトハ事實デアアル。而シテ其理由トシテ
余ニ示サレタル所ハ區々デアアルガ、余ハ判決ガ
不公平デアルトイフヨリモ、寧ロ證人トシテ出
デタル雇主ニ對スル氏ノ取扱ガ其酷ニ過ギタノ
ト、判決文中ニ間々惡感ヲ催サシメル文句ガ含
マレ居ルカラデアルト信ズル。例ヘバ次ノ文句
ノ如キ是デアアル。

雇主ガパンチ與ヘルコトヲ拒ムノハ、労働者が労働ヲ拒

ムヨリモ遙カニ有力ナル武器デアアル。労働者ハ、其家督ノ
權チ一回ノ食事ニ代ヘテヤコブニ讓ツタ時ノエサウヤ、路
賊ニ所持金ヲ渡シテ命乞ナシナケレバナラヌ旅人ト、理論
上全ク同ジ立場ニ居ルデアアル。」

此ノ如キ言葉ガ威名ト權力トヲ有スル判事ノ
口ヨリ洩ル、ノハ面白カラヌコトデアアル。何故
ナラバ、氏ガ雇主ニ對シテ非常ナル惡感テ懷キ
居ルカノ如クニ感ゼラル、カラデアアル。恐ラク
氏ハ雇主ニ對シテ偏見ヲ懷イテハ居ナイデアラ
ウ。此ノ如キ強キ言葉ヲ用キタノハ寧ロ氏ガ何
等ノ財産ヲ所有シナイ箇々ノ労働者ト、莫大ナ
ル富ヲ抱イテ居ル近世ノ大雇主トノ間ニ、契約
ノ自由ガ實在シテ居ルト想像スルコトノ全然誤
リデアルコトヲ認メタカラデアアル。

仲裁裁判所判事ノ地位ハ決シテ羨望ニ値スル
モノデハナイ。彼等ハ偏頗ナリトノ非難ヲ、雇
主側カラモ、労働者側カラモ、受ケルコト必定
アデル。新西蘭裁判所ノ判事シム氏ハ、ヒツギ

ンス氏ガ雇主側ニ不人望デアルニ引替へ、勞働者側ニ不人望デアル。而シテ氏ニ就イテハヒ氏ノ場合ヨリモ其理由ニ乏シイ。即チ、新西蘭裁判所ノ定メタル最低賃銀ハ、ヒ氏ガ今日迄固守シ居ルモノヨリモ一日ニツキ一志乃至二志高イ加之、シム氏ハ其先任者ノ誰ニモ、又何レノ裁判所ノ判事ニモ曾ツテ組合勞働者ニ特典ヲ與フベキコトヲ主張シテ居ルノデアル。

余ハヒツギンス氏ノ判決錄ヲ全部熟讀シ、且ツ此問題ニツイテ氏ト親シク論議ヲ交ヘテ、氏ガ何等ノ偏執ヲモ有シテ居ナイコトヲ確認スル。加之、余ハ多數ノ經濟學者ハ余ト共ニ、氏ノ判決ノ基礎ヲナシテ居ル原則ガ全然正當デアルコト、及ビ氏ガ此原則ヲ實際ニ適用スルニ當リ正確ナル論理ヲ用キタルコトヲ認ムルデアラウト信ズル。

今日世界ノ耳目ヲ濠洲ニ集中セシメ、又社會民主主義ノ歷史上ニ一大異彩ヲ放ツテ居ル濠洲

社會的立法ノ制定ヲ促シタ濠洲人ノ理想ハ、ヒ氏ニヨツテ最モ詳シク又最モ明瞭ニ表白セラレタノデアル。サレバ今左ニ、此新運動ノ根底ヲナシテ居ル哲理ヲ氏ノ言葉ニヨツテ記シテ結論ニ代ヘヤウ。

「余ハ余ノ任務ガ決シテ企業家 (Captains of industry) ニ對シテ、如何ニシテ最モヨク其事業ヲ經營シ得ベキヤヲ教ヘルコトデナイトイフコトヲ充分ニ了解シテ欲シイ。余ノ任務ハ社會的平和ヲ若シ能フベクンバ！確保スルコトデアル。而シテ余ハ之ヲ確保センガ爲メニ、勞働者ニ其勞働ニ對スル正當ナル報酬——何ヨリモ、第一ニ生存ノ欲望ヲ満足スルニ充分ナル資料——ト必要ナル休養時間トヲ得セシメナケレバナラヌ。人生ニ對スル價值ノ増進シタルコト、人間ヲ貨殖、競争ノ道具タラシメルノハ其尊嚴ヲ侵スモノデアルコトノ認メラレタルコト、竝ニ争鬭ガ弊害ヲ醸ス場合ニハソハ出來得ル限り排斥サルベキモノトセラル、ニ至ツタコト等ハ、實ニ今日實行サル居ルアラユル勞働調節ノ方策ノ背後ニ伏在スル原動力トモ看做サルベキモノデアル。併シナガラ。此以外ノ點ニ於テ雇主ノ行爲ハ何等ノ束縛ヲモ蒙ルベキデナイ。現時ノ產業界ノ困難ナル狀態ニ處シテ奮闘努力ヲ試ムルニ當ツテ、彼等ハ彼等自身ノ意向ト判斷トニ從フ自由ヲ有ツテ居ルノデアル。」 (完結)